



今回は、AFS でイタリアに留学している関高生の中間報告です。

◇ イタリア留学体験

長良太慈

## はじめたイタリアでの生活

日本を離れてから、早くも三ヶ月が経とうとしています。着いた当時は暑ささえ感じていましたが、今では冬の寒さに凍えています。思い返せば、これまでの一日一日は濃厚で、それでもあっという間に過ぎ去ってしまったように思えます。

ここに来た最初の頃は、何もかもが新鮮で刺激的でした。この留学をするまで、日本から出たことはなかったので、ただまわりに外国人が大勢いるということ自体が、とても新鮮なことでした。しかし、反対に不安や焦りもありました。

たとえば、初日に他の日本人の留学生とこちらの空港に着いた時、他国の留学生と一緒にいる時がありました。Hello くらいしか言えませんでした。

「あれだけ英語の授業を受けて来たのに何なんだこれは」と焦りを感じたのを覚えています。いざとなったら日本語を使っていた学校での授業との違いに気づいたのは、その時でした。

そんな最初の頃の戸惑いや新鮮さが段々と日常に変わって来ています。そのことが嬉しい反面、寂しくもあります。

## イタリアで感じたこと、考えたこと

今も、毎日が刺激的なことに代わりはありません。たくさんの人と出会い、新しいものを見るたびに、たくさんの発見があります。

ベネチアには数回行きましたが、美しく、そして歴史があり、学ぶことがたくさんありました。迷路のような細い路地を進んだり、水路にかかる石橋から gondola を見下ろしたり、いるだけでとても楽しい所でした。

発見は自分の外側だけでなく、自分の内側にもあります。もちろん、こちらではうまくいかないことの方が多いです。失敗もたくさんしています。その中で、自分の良さと、弱さに気付かされます。

私にとって最も幸運なことは、大好きな音楽をこちらでも続けられているということです。ただの楽しみとしてだけではなく、これを通してたくさんの人と出会うことができているからです。

こちらでも吹奏楽団に入っています。とても上手という訳ではありませんし、素人も混ざっているような楽団です。それでも、演奏することが楽しいし、他の、大人の演奏者と話すこともとても楽しく感じます。音楽に国境はないというのも、あながち間違いではないのかもしれませんが。

今の自分はまだ、日本に帰るには、とても未熟で弱いと感じます。身につけたい能力も知識も



まだまだです。これからの七ヶ月間を無駄に過ごすことがないように、頑張りたいと思います。

最後になってしまいましたが、この留学を認め、支えてくれた家族を始め、僕を送り出してくれた先生、先輩、後輩、そして同級生のみんなに改めて感謝を伝えたいです。ありがとう。

